

Landscapes of Toyohashi
豊橋の景観





雄大な表浜海岸に暮らす小さなスナガニ。
人の気配がなくなると砂浜からひょっこりと姿を現す。

見つめ直すと
もっと豊橋が好きになる

多様な自然にやさしく包まれたとよはし。
よく眺めてみると、
知らなかった景色や
気づいていなかった景色がいっぱいある。

それぞれの場所に自然や人の営みがあり、
そこかしこに地域らしさが見え隠れしている。

この恵まれた環境を大切に、
心地よい景観をもっと育んでいきたい。



上：東部丘陵と霊峰石巻山の眺め（下条西町の水田地帯から）

東部の山並みが、まちをやさしく包み込み、霊峰石巻山がまちを見守っている。豊川沿いの低地には、青々とした水田が広がり、その背後には、河岸段丘の斜面緑地が台地を縁取っている。

右：趣のある石巻神社(山上社)

古来、石巻山は信仰の対象とされ、麓に石巻神社本社が、中腹に山上社がある。歴代の吉田藩主の崇敬を受けてきたという。山頂付近は石灰岩が露出しており、ダイダラボッチの足跡と言われる奇岩があり、民話に「ダイダラボッチが石巻山と本宮山をまたいでおしっこをしたら豊川ができた。」と伝えられている。

旅からの帰り道、
あの山が見えるとほっとする。

まちを見守るように、
いつもそこにある三角の山。

見なれた景観が、
心のよりどころになっている。





早春、カタクリ山が薄紫に彩られると、やがて、柿畑に輝きの季節がやってくる。

新緑に染まった柿畑は、日差しが強くなるにつれ、深い緑に移り変わる。

秋、たわわに実った柿の実が、鮮やかに色づき、甘く豊かな恵みとなる。

木枯らしが吹き、赤く染まった葉が散ると、静かな季節が訪れる。

実りを育む柿畑は、四季折々に美しく、私たちの心も豊かにしてくれる。

上：新緑の柿畑の丘（石巻平野町）

豊橋の北東部は次郎柿の特産地。里地には広大な柿畑が広がる。

右：早春のカタクリ山（石巻西川町）

3月下旬、城山（戦国時代の西川城址）の北斜面にカタクリの花が一斉に咲く。





上：河畔林の緑に包まれ、ゆったりと流れる豊川（下条西町付近）

戦国時代から、流域に「霞堤」と言われる不連続な堤防がつくられ、豊川下流域の洪水被害をおさえていた。

右：牛川の渡し（牛川町～大村町）

豊川の兩岸を結ぶ人力の渡し船で、今も市民の足として使われている。緑に包まれた流れのなかを、船頭の竿さばきでゆったりと進む渡しの景観は、懐かしい気持ちにさせてくれる。

奥山の清らかな水が集まり、やがて豊かな川の流れとなる。山間からの流れは、幾重にも蛇行し、まちに潤いをもたらしながら、ゆったりと海へと向かう。

古来、豊川の流れは、物や人、文化の往来の場となり、この地域に多くの恵みをもたらしてきた。

緑に包まれた清らかな流れは、人々にやすらぎをもたらし、大切なふるさとの景観になっている。





ゆったりと流れる豊川を背に、城は築かれ、城下町がつくられた。城下町吉田は、宿場町、湊町としても栄え、豊橋の発展の基礎となった。

近代化、戦災、復興と時代を経て、城下町周辺は大きく変化した。しかし、地域の伝統行事は引き継がれ、歴史的資源も大切にされ、老舗が味を伝えている。

かつて、豊川には、お伊勢参りや物資運搬の船が往来し、東海道の吉田大橋が架かり、人々は、吉田城の雄姿を眺めて旅をした。その城と川の眺めは、浮世絵の画題となる名所のひとつであった。

山並みを背に、豊かな水と緑に包まれ、凜と佇む城と石垣。かつて旅人たちが眺めたその景観は、今も残り、市民にとって大切なふるさとの景観になっている。



上：豊川の流れと吉田城

下：東海道五十三次之内 吉田 豊川吉田橋(行書版) 歌川広重



上：国道1号を走る路面電車（市役所前電停付近）

右：夕日の東田坂上（伊奈彦定 画）

ガタンゴトン
まちに路面電車の音が響く。
ちょっとけなげに揺れながら、石畳の坂を上り下りする。

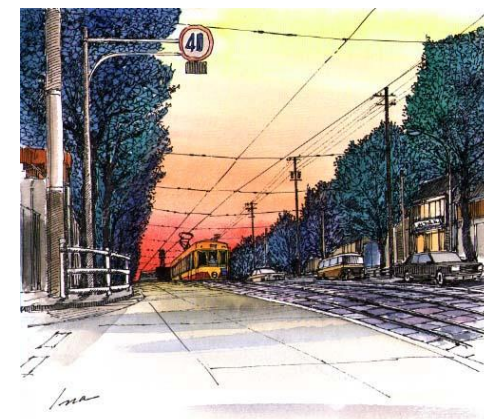
私鉄だが、市民は親しみをもって「市電」と呼ぶ。車窓からの眺めは、市民にとって、いつもの暮らしの景観。

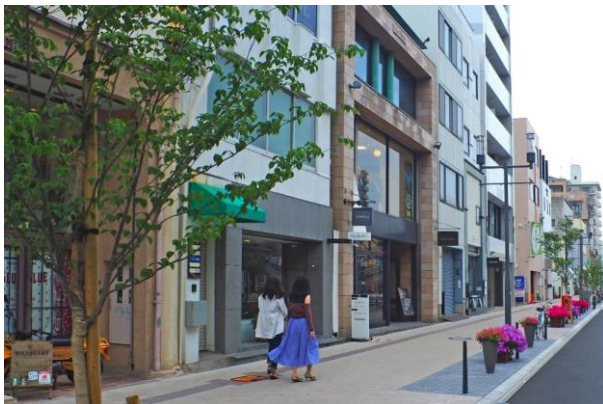
かつて、豊橋の市街地は戦災で焼け野原になった。間もなく市電は走りだし、その姿は市民に勇気と希望を与え、市電とともにまちは復興した。

時が流れ、多くの都市で路面電車は消えていった。しかし、このまちでは、市民に愛され、まちづくりに活かされながら、ずっと走り続けてきた。

移り変わるときのなかで、昔から変わらず、ゆったりとしたリズムを刻みながら、今日も市電はまちを走る。

市電が走るまちの景観は、未来に残したいこのまちの宝物になっている。





このまちには色々な暮らしの景観がある。

中高層のビルが建つ駅前の商店街、緑豊かな郊外の住宅地、里山のふもとの落ち着いた集落、漁村の面影が残る路地のあるまち。

それぞれの場所に人々が暮らし、長い年月の中でつくられてきた様々なまちの景観。

目を凝らせば、大切に引き継がれてきたことや、そのまちの良いところが見えてくる。

失われつつある大切なものや、目には見えない大切なことに気づくかもしれない。

そうした発見のなかに、地域らしさを育むヒントが、きっと隠れている。

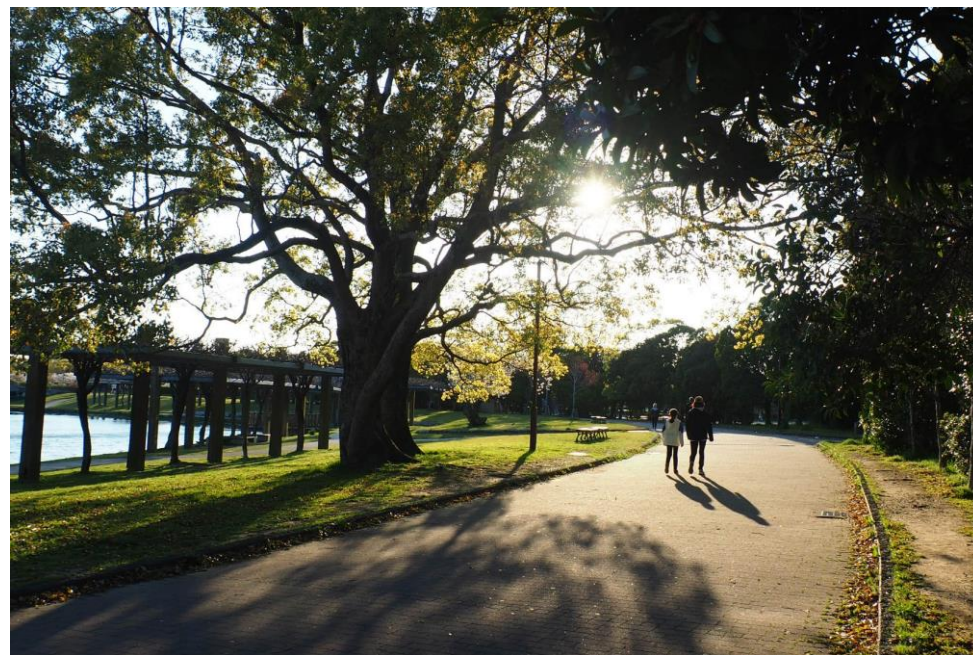
左上：豊橋駅前の商業地

左下：ストリートデザイン事業を行った萱町通り

右上：郊外の住宅地（野依台一丁目）

右中：東部の里山の集落（岩崎町）

右下：漁村の面影が残るまち（前芝町）



人々の活動は、まち並みや自然とともに景観の一部となり、様々な表情を生み出している。

賑わい、活気、やすらぎなど。

心地よく暮らせるこのまちには、日々の暮らしのなかに、そんな彩りがたくさんある。



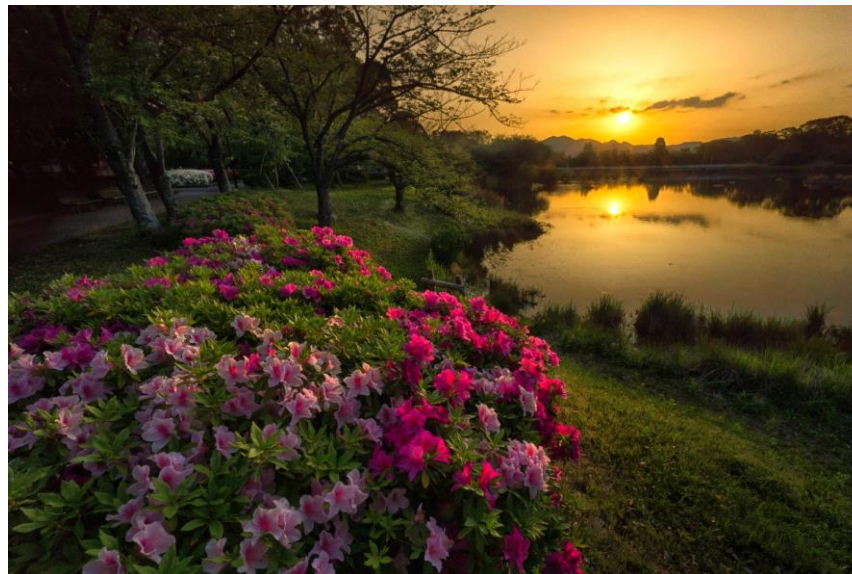
左上・中上：賑わいあるまちなか歩行者天国（広小路通り）

中央：心躍るクリスマスマーケット（豊橋駅南口駅前広場）

左下：豊橋駅前のイルミネーション（豊橋駅東口駅前広場）

右上：影が伸びる穏やかな散歩道（幸公園）

右下：心安らぐ春の水辺（岩田運動公園の水神池と東部丘陵の眺め）



まちを歩けば緑を感じ、四季折々の花に癒される。
遠くを眺めれば、まちを抱く山並みが、心を安らかにしてくれる。
郊外にいけば、風光明媚な社寺があり、ホタルの舞う里が懐かしい気持ちにしてくれる。
このまちは、豊かな自然に包まれている。
めぐる季節と移ろう時のなかで、静かに躍動する自然の景観が、私たちの暮らしを豊かにしてくれる。

左上：桜吹雪のあと（向山緑地）
左下：初夏の正宗寺
右上：夜明けの大池（向山緑地）
右下：紅葉の普門寺



東海道三十三番目の宿場町 二川宿。

江戸時代、旅人達は街道を歩き、長旅の一夜をこの町で過ごした。軒の連なる落ち着いたまち並みが、疲れた旅人達を優しく迎え入れていただろう。

時は流れ、歴史的なまち並みが全国で消失した。しかし、このまちでは、当時の町割りや歴史的な建物が奇跡的に残った。

板壁に囲まれた、ひっそりとした路地。街道沿いの軒下に落ち着いた空間を生み出す瓦屋根。木や漆喰でつくられた味わい深い外壁。内と外を柔らかにつなぎ、趣のある陰影をつくる木の格子。二川宿のまち並みには、宿場町の風情が沢山詰まっている。

まち並みを眺めれば、そうした家々に調和させながら、新しい家づくりがはじまっている。暮らしを彩る住民の取り組みも見えてくる。

屋根の形をまち並みに合わせ、落ち着いた色合いで仕上げた家々。格子のイメージを表したガラスや金属の外壁。風に揺らぐ藍色ののれん。玄関先に飾られた一輪挿しや草花。

このまちの景観には、誇りと愛着を持って暮らす住民の心が現れ、訪れる人々にも心地よい。



上：商家「駒屋」横の瀬古道
左下：二川宿本陣
右下：夏の夜に開催される「灯籠で飾ろう二川宿」



二月、千年余りの歴史を持つ「鬼祭」が行われる。
「赤鬼と天狗のからかい」が、東三河に春を告げる。

夏、清流「豊川」の夜空に、「祇園祭」の打ち上げ花火が華ひらく。
一瞬一瞬の輝きが、水辺のまち並みや浴衣姿の人々を照らしだす。

それぞれの地域で、脈々と受け継がれてきた数々の伝統行事。
年に一度の輝きは、心に残る景観になり、世代を超えて共有される。

上：「祇園祭」の打ち上げ花火

吉田神社の例祭として、毎年7月に豊川河畔で行われ、夏の風物詩になっている。吉田神社は手筒花火発祥の地と言われている。

右：安久美神戸神明社の鬼祭

祭りは、国の重要無形民俗文化財に指定されている。鬼は町内を駆け巡り、まちも祭の舞台となる。



江戸時代、城下町吉田は湊町としてもよく知られ、豊川河口の前芝湊とともに大いに栄えた。

三河湾には、たくさんの物資を載せた廻船が、江戸や各地を結んで行き交い、伊勢参りの旅人を乗せた参宮船が、大きな帆を広げていただろう。

現代、三河港は世界有数の国際自動車港へと発展した。

三河湾には、遠い国からの貨物船が行き交い、港では、数えきれない車たちが、巨大な船にミニチュアのように吸い込まれていく。

かつて湊町として栄えたこのまちは、世界に羽ばたく港湾都市となり、水辺はダイナミックに変化した。

一日が暮れるころ、今も昔も変わらず、湾のかなたに日が沈む。

夕日に染まる港の景観は、心にしみるものがある。

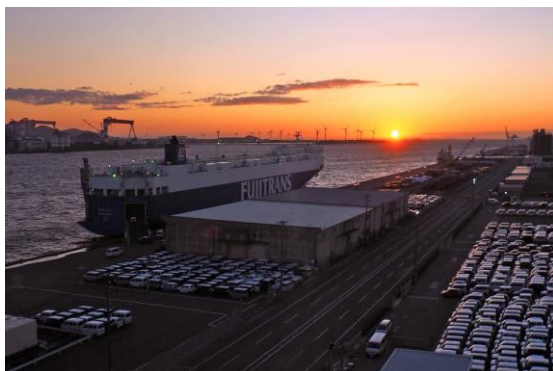


上：夕日に染まる波止場

港に入る大型船は、タグボートが出迎える。港のエスコート役は、大きな船を接岸させ、出港の時も見届ける。岸壁では、ガントリークレーンが、幾多のコンテナを積み上げる。縁の下の力持ちたちが働く姿は、躍動する港の景観をつくっている。

左：三河港の夕暮れ（カモメリアからの眺め）

三河湾のかなたに日が傾くと、オレンジ色の帯が海面に揺らめき、港の車たちが輝きだす。やがて、黄昏時を迎え、大空が深みを増すと、星が静かに光りだす。





上：連続テレビ小説「エール」のロケ地にもなった表浜海岸（高塚町付近から渥美半島の先端方面を望む）

豊橋市の南部は、黒潮が流れる太平洋に面し、雄大な自然景観が広がっている。荒波に削られた崖の上には、常緑広葉樹の海岸林がつながる。渥美半島の先端付近から静岡県浜名湖付近まで約52kmに亘り砂浜が続き、片浜十三里と言われている。

右：砂浜から旅立つ子ガメたち

表浜には、毎年5月から8月にかけてアカウミガメが上陸し産卵する。約2か月後、ふ化した子ガメたちが海へと向かう。長い年月をかけ、遠く北米大陸沿岸まで旅をし、そこで大きく成長したカメは、ふるさとの海に向かって回遊するという。

大空の下、砂浜と海食崖が果てしなく続く。

波は一瞬一瞬姿を変え、絶えることなく打ち寄せる。

砂浜では、ハマヒルガオが風に揺らぎ、アカウミガメの産卵とふ化が繰り返される。

海のかなたに目をやれば、水平線が弧を描き、小さな船影が静かに揺らめく。

気の遠くなるような歳月をかけ、自然がつくりだした雄大な景観は、人の心をふるわせる。



調和のとれた美しいまちは
暮らしを豊かにしてくれる

自然と人の営みが、
景観をつくっている。

それぞれの場所で大切なことを考え、
できる取り組みをしてみよう。

家づくりや店づくりなどの際には、
まわりとの調和を意識してみよう。

一人ひとりの思いが積み重なって、
私たちの暮らしは、
心地よいものになっていく。



豊橋市の景観づくり

豊橋市では、美しい景観づくりの方向を示す羅針盤として、「豊橋市景観計画」をまとめました。

この計画には、景観づくりの基本的な考え方や、美しく地域らしい景観づくりの配慮指針などを示しています。

また、この計画に沿ってより良い景観づくりが進むよう、3冊の図書もまとめました。

「景観計画ガイドライン」には、家づくりや店づくりなどの際に参考となるデザインの進め方を紹介していますので、是非ご活用ください。

★アクセス先

豊橋市都市計画課ホームページ

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/13439.htm>



豊橋市景観計画



豊橋市景観計画ガイドライン



豊橋市公共事業景観形成ガイドライン

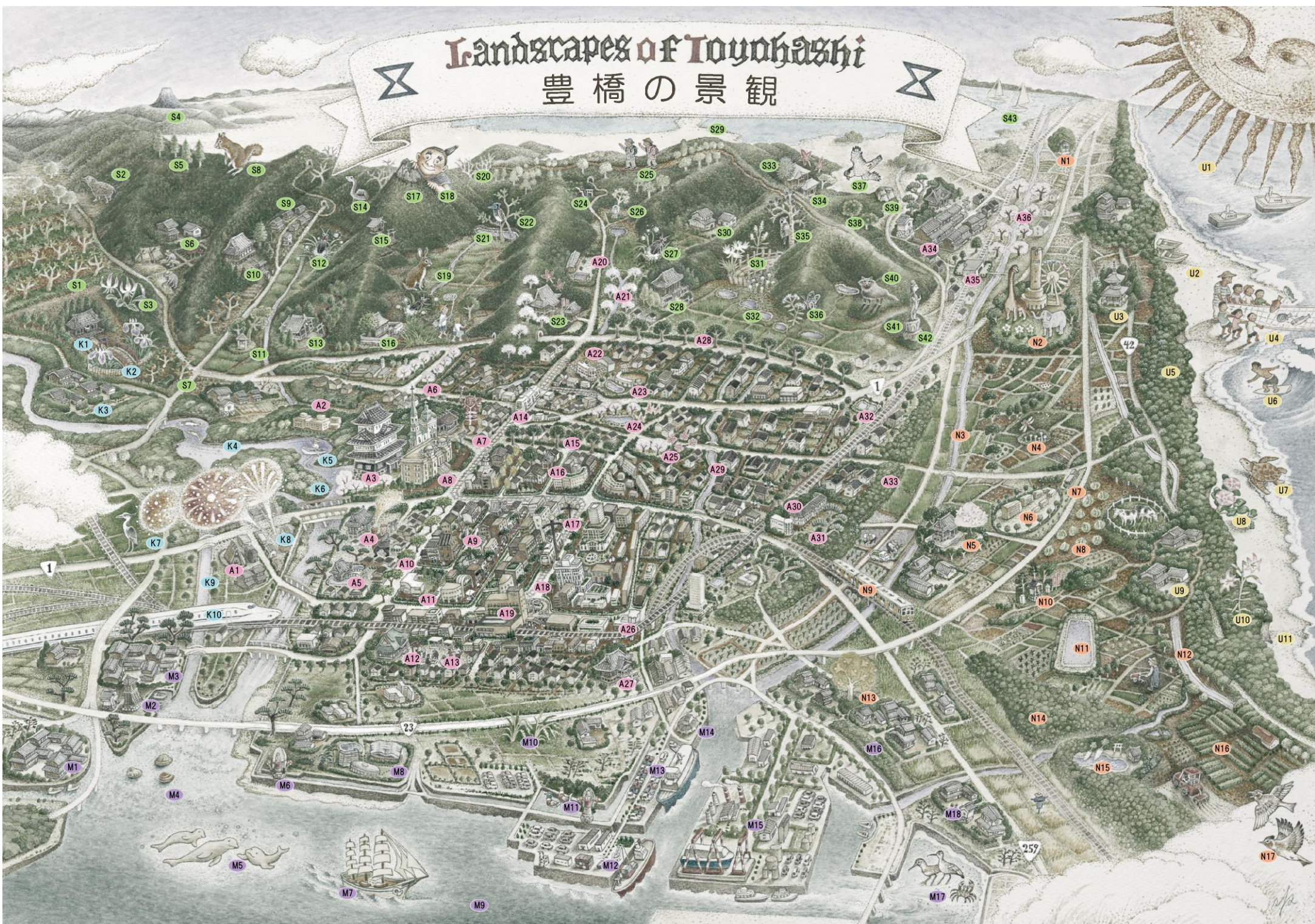


豊橋市景観資源ガイドマップ



Landscapes of Toyohashi

豊橋の景観



Handwritten signature or initials in the bottom right corner.

◆ 豊橋市の主な景観資源

No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称				
里山の景	S1	広大な柿畑	里山の景	S37	タカ類	町の景	A1	瓜郷遺跡（国指定史跡）	川の景	A35	二川駅
	S2	二ホンイノシシ		S38	みかん山		A2	豊橋創造大学		A36	桜並木（梅田川）
	S3	カタクリ山		S39	立岩		A3	吉田城址（鉄橋）・豊橋公園		N1	一里山の一里塚（市指定史跡）
	S4	富士山の眺め		S40	ホンドタヌキ		A4	吉田神社・祇園祭の手筒花火		N2	豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）
	S5	モミ群落		S41	岩屋緑地		A5	湊築島弁天社（国登録有形文化財）		N3	梅田川
	S6	里山の集落（石巻中山町など）		S42	岩屋観音		A6	豊橋ハリストス正教会聖徒福音者馬太聖堂（国指定重要有形文化財）		N4	天伯湿地
	S7	馬越長火塚古墳群（国指定史跡）		S43	浜名湖の眺め		A7	安久美神戸神明社（国登録有形文化財）・鬼祭（国指定重要無形民俗文化財）		N5	野依八幡社のシダレザクラ（市指定天然記念物）
	S8	二ホンリス		K1	賀茂神社（本殿：県指定有形文化財）		A8	豊橋市公会堂（国登録有形文化財）		N6	豊橋技術科学大学
	S9	本坂道（姫街道）の宿場町「嵩山宿」		K2	賀茂しょうぶ園		A9	吉田宿本陣跡		N7	道の駅とよはし
	S10	正宗寺		K3	鶴巻の集落（高い橋の生垣の家並み）		A10	蒲郡街道（国道23号）のケヤキ並木		N8	広大な畑地（キャベツ畑など）
	S11	長楽のヒノキ（市指定天然記念物）・クロガネモチ・しょうべん地蔵	K4	豊川・河畔林	A11	こども未来館（ここにこ）	N9	田園を走る豊橋鉄道渥美線			
	S12	ゲンジボタル（長彦川）	K5	牛川の渡し	A12	羽田八幡宮	N10	しあわせ地蔵			
	S13	石巻神社：本社	K6	下地緑地（金色島）	A13	朝市（羽田八幡宮境内）	N11	万場緑地・万場調整池			
	S14	嵩山蛇穴（国指定史跡）	K7	アオサギ	A14	路面電車（ほつらム）	N12	豊川用水路			
	S15	石巻神社：山上社	K8	祇園祭の打上花火大会	A15	くすの木通りのクスノキ並木	N13	龍源院のお葉つきイチョウ（県指定天然記念物）			
	S16	玉泉寺のナギ（市指定天然記念物）	K9	豊川放水路	A16	龍拈寺山門（市指定有形文化財）	N14	河岸段丘崖の斜面林			
	S17	石巻山	K10	東海道新幹線	A17	路面電車が走る駅前大通り	N15	真田神社：真田祭（大根流し）			
	S18	ダイダラボッチ	M1	旧漁村集落（梅敷町）	A18	豊橋駅東口駅前広場	N16	茶畑の丘			
	S19	二ホンノウサギ	M2	前芝の燈明台（県指定史跡）	A19	豊橋駅	N17	ヒバリ			
	S20	イヌツゲ群生林	M3	旧前芝湊・旧漁村集落（前芝町）	A20	民俗資料収蔵室：旧多米小学校（国登録有形文化財）	U1	太平洋（遠州灘）・水平線の眺め			
	S21	三ツロ池	M4	六条湯	A21	朝倉川	U2	表浜海岸：砂浜・漁港			
	S22	サンコウチョウ	M5	スナメリ	A22	市内電車赤岩口車庫	U3	東観音寺（多宝塔：国指定重要有形文化財）			
	S23	赤岩寺	M6	護岸観音（三十三観音）	A23	岩田運動公園	U4	地引網			
	S24	多米の不動滝	M7	日本丸・海王丸	A24	向山緑地：向山大池	U5	海岸林			
	S25	豊橋自然歩道	M8	豊橋総合スポーツ公園	A25	向山緑地：梅林園・さくら広場	U6	サーフポイントの海岸			
	S26	多米の道祖神	M9	三河湾・三河港	A26	穂の国とよはし芸術劇場（プラット）	U7	アカウミガメ（産卵地）			
	S27	ゲンジボタル（内山川）	M10	神野新田の広がりある水田	A27	牟呂八幡宮	U8	ハマヒルガオ			
	S28	鞍掛神社	M11	遊水地・カモ類など	A28	東三河環状線のクスノキ等の並木	U9	海岸林に包まれた集落（高塚町など）			
	S29	神石山	M12	三河港：豊橋コンテナターミナル	A29	柳生川	U10	ささゆりの里			
	S30	里山の集落（岩崎町など）	M13	三河港：大型船と自動車が並ぶ景観	A30	愛知大学・旧本館（国登録有形文化財）	U11	海食崖			
	S31	葦毛湿原（県指定天然記念物）	M14	ライフポートとよはし	A31	高師緑地					
	S32	ため池群（宮前池・利兵池など）	M15	造船所など大型工場が立地する明海地区	A32	幸公園：長三池					
	S33	普門寺の大スギ（市指定天然記念物）	M16	明海緩衝緑地	A33	河岸段丘崖の斜面林					
	S34	普門寺	M17	汐川干潟・シギ類、チドリ類など	A34	東海道の宿場町「二川宿」					
	S35	コゲラ	M18	旧漁村集落（杉山町天津など）							
	S36	アサギマダラ									



- ◆ 編集・発行 : 豊橋市役所 都市計画部 都市計画課 〒440-8501 豊橋市今橋町1番地 < 2021年4月 >
TEL : 0532-51-2615 FAX : 0532-56-5108 E-mail : toshikeikaku@city.toyohashi.lg.jp
- ◆ 描画(表紙) : かんだあさ ◆ 写真撮影 : 宮城谷好是・水谷明博・白井康裕・豊橋市